



風をうけて

大通高校を去るにあたって ～ ありがとう さようなら

この2年間、学校 Web ページに校長通信『風をうけて』を掲載してきました。第1号で述べたとおり、様々な風を受け、人生をヨット(帆船)になぞらえながら、その時々で吹く風をコントロールできるようになってほしい、そんな思いを伝えたくて綴ってきました。以下は、先日の卒業式で卒業生へ贈った言葉です。要旨は概ね以下のとおりです。この学校を去るにあたって、そのまま在校生のあなたにも贈る言葉とします。



◆大通高生のあなただから

風には色も形もないから、どこから吹いてくるかわかりません。でも、人生にはいろんな風が吹いています。追い風ばかりではない。向かい風、横風、下から吹き上げるような風もあるでしょう。追い風を受けて、帆がいっぱいにくらんで快適に進める状態を順風満帆といいます。順風の反対は逆風。でも、ヨットは逆風でもしっかり風をコントロールしながら目指す方向へジグザグに進みます。舵を取る人はその時々で、どうしたら前へ進めるか知恵を絞り、風をコントロールしているのです。

日々の生活では逆風が吹いて「ちょっときついなあ」と思うことがあります。人のこころは不思議です。どうしようもなく些細な日常の出来事に心がささくれ立ってしまうことがあります。そんなとき、嫌な風が吹いてきたなあと気が滅入ってしまいます。人は見えない風に翻弄されまです。目に見えることだけで物事を判断していると、危機に対応できないものです。目に見えるものだけに価値を置いてばかりいると、ほんとうに大切なことに対して鈍感になってしまいます。目に見えないものにも価値を見出せるようになると、人生が少しずつ変わってきます。どうか風を感じて取ってください。大丈夫、君はできる。大通高生だもの。

◆ヒト、コト、モノと向き合い、自分と向き合う



大通高校には、ヒト、コト、モノと向き合う機会がたくさん用意されています。日々いろいろなことと向き合っているけれど、楽しいこともあれば面倒なこともあります。結局、それは自分と向き合っているのです。私自身、自分の人生を振り返って、いろいろと反省することがあります。もしかすると、限界を設定しているのは自分じゃないかと、ふと思うことがあります。気が付いたら、「できない理由」「やらない理由」を探している自分がいます。

人生はいつも順風満帆ではありません。置かれた環境によって、逆風が多いとか少ないとか、人によっていろいろです。入学式では「置かれた場所で咲きなさい」と伝えました。今は風をコントロールする勉強をしているのです。でも、その技術のすべてを若いうちにマスターするなんてできっこありません。答えをすぐに求めようとしなくてもいいのです。常に自分なりにどうすればよいか考えることが大切なのです。考えることをやめてはいけません。

問い続けること、考え続けること、自分と向き合い続けることです。

いろいろなコトと向き合っていると、自分の至らなさや弱さに気付きます。ひとりで何ができるか、どれほどのことができるか、自己の能力を知り、自分の至らなさ、不甲斐なさを自分自身に突きつけて、現実を受け容れる勇気も必要です。そこで苦しいとか辛いとぼやいているだけでは何も解決しません。友達や先生、家族のせいにしてもいけません。環境のせいにしたり時代のせいだとぼやいてばかりでもいけません。それを克服することに心を傾けましょう。そのために頭を使うのです。それが本当の教養であり知性なのです。

どんな時でも、どんな風が吹いてもそこには必ず何かしらの意味があります。意味のある、あなたの人生の物語が紡がれているのです。どうか、**昨日よりも今日、今日よりも明日の自分を思い描くこと**を心がけてください。私自身、そうあるよう努力します。そして、あなたにもそうあってほしいと願っています。

私は大通高校が大好きで、そこで懸命に頑張っている君のことも大好きです。これからも応援しています。読んでくださった生徒諸君、保護者の皆様、市民の皆様にお礼申し上げます。

ありがとうございました。

